どんぐり

2016ＪＲ総連春闘！
組合員の総団結をもって闘い抜く！

ＪＲ総連第38回定期中央委員会を皮切りに、ＪＲ貨物労組第28回定期中央委員会、各地方本部の地方委員会もすべて終了し、『2016ＪＲ総連春闘』が本格的にスタートした。この新聞が組合員の皆さんの手に届くころには、最終局面＝山場をむかえている。特に3月15日は、18日の回答指定日をむかえるにあたって「ＪＲカード廃止を忘れない」との想いとも結合して、全国統一総決起集会が各級機関で予定されている。16年連続ベアゼロを何としても突破するために、あらためて組合員の総決起を訴える。

そもそも春闘とは『賃上げのための統一闘争』であった。1955年の総評方針に基づく賃上げ闘争から概ね20年間は、高度成長期も相まって妥結率は右肩上がりであったが、1974年の第一次石油ショックを契機として、日経連内に労働問題研究会が設置され『生産性基準原理』（＝生産性の枠内での賃上げガイドライン）が打ち出され、1995年、グローバリゼーション＝新自由主義＝規制緩和の名の下で、日経連の新時代の日本的経営の導入によって、労働側の賃上げ闘争はことごとく敗北に終始してきた。今日では官民対談によって一国の首相が経営側に賃上げを要請するという官製春闘が定着しつつある。しかも労働側は、連合方針＝2%程度の実質賃金引上げを早々と低額で逸脱する自動車・電気などの大産別が構成しているのである。

私たちは春闘の歴史と伝統と意義を再確認し、ＪＲ総連・ＪＲ貨物労連の連帯のもと統一要求・統一闘争としての『2016ＪＲ総連春闘』を職場から組合員の総結集をもって闘い抜き、16年連続ベアゼロの突破はもとより、優秀な人材確保のための労働条件の向上、社員間・業種間の格差是正に向けた要求実現を一つでも多くかちとろうではないか。私たちにとって賃金とは、『個体の維持と種の存続＝労働力の再生産費、その貨幣的表現』と言われている。決して労働の対価ではない。向こう一年間、自らが生きるために働く体力と能力の維持＝衣・食・住＋余暇＋教育（＝子育て含む）に必要な貨幣なのである。よってこれは組合員一人ひとりの自らの問題であり、闘いなのである。ゆえに、組合員みんなで総団結して闘おうというものなのである。決して中央本部の労使協議で決着するものではないし、あってはならない。中央本部の労使協議を有利に進めるためにも、組合員の総団結が問われるのである。

ＪＲ東労組は、2年連続して賃金（ベア）に格差をつけることを許さないとして、規約「争議の指令権」に基づいて本部内に「中央闘争委員会」を設置して闘争方針を確立し団体交渉に臨んでいるという。東京地本では連帯する闘いとして模擬の「スト権批准一票投票」を実施して、本部交渉を支える体制を確立しているようだ。私たちもＪＲ東労組の闘いに学び、春闘標語や現場長要請行動、要請ＦＡＸ行動など私たちの独特な職場闘争の強化と闘う体制の確立に向けた議論の緻密化を進めなければならない。

今年2016年は、決戦の年である。労働組合の存在意義とその結果が求められる。今次春闘はその初端の闘いとなる。16年連続ベアゼロを突破するとともに、人材確保、格差是正を高々と掲げて職場から闘い、同時に労働者の闘いに時の政府が介入するという今日の安倍政権に断を下すために『たしろかおる応援プロジェクト』の完遂をめざそう。私たちはＪＲ5単組「断突のビリ」周回遅れのトップランナーである。私たち一人ひとりの闘いが問われている！

たしろ応援プロ完遂
定期地方委員会開催！
16春闘を職場から闘おう

北海道

2月11日に札幌市内にて定期地方委員会を開催しました。脱退・新幹線・要員問題、基地移転後の課題、16春闘、たしろ応援プロジェクトを中心に挨拶・発言がありました。

会場には、昨年12月に発生した元地本執行委員による悪辣な組織破壊攻撃に対し全国の仲間から送っていただいた檄布・檄紙を掲示しました。「激励ありがとうございました」

組織破壊攻撃に対し毅然と立ち向かい16春闘勝利、たしろかおる応援プロジェクト目標達成に向け闘い抜くことを参加者全員で確認しました。

東北

2月13日、仙台にて定期地方委員会を開催し「たしろプロジェクト」をはじめ、2016春闘やダイヤ改正に対する取り組みなど、地本定期大会までの闘いを意思統一しました。特に、会社の中期経営計画・鉄道事業黒字化に向けた最終段階、私たちの将来を決す場を築くため、全ての取り組みをたしろ応援プロへと繋げてきました。安全・技術継承の根幹を揺るがす要員不足という現実に対して、組織強化によって会社施策に立ち向かってきた苦闘が報告されました。全組合員でたしろ16春闘勝利・応援プロの貫徹に向けてたたかうことを意思統一し成功裏に終了しました。

関東

2月20日に東京・赤羽会館にて定期地方委員会を開催しました。約90名の仲間が結集しました。委員からは、ベアに拘って春闘を闘う。平和で安心して暮らせる社会と職場を築くため、全ての取り組みをたしろ応援プロへと繋げてきました。安全・技術継承の根幹を揺るがす要員不足という現実に対して、組織強化によって会社施策に立ち向かってきた苦闘が報告されました。全組合員でたしろ16春闘勝利・応援プロの貫徹に向けてたたかう決意が出されました。

東海

2月14日に、36名が参加し、静岡支部大杉委員を議長に選出し、「決戦の年」を全力で闘う方針を決定しました。細川委員長は、「たしろかおる応援プロジェクトの完遂」と「16春闘勝利・ベア獲得」を職場闘争の強化を通じて実現しようと述べました。委員からは要員不足や業務問題、たしろ応援プロジェクト、16春闘、平和、労働基本権、組織強化、サークル活動等の発言があり、総括答弁で「まだ伸びしろがある。春闘・たしろを団結してがんばろう」と締めくくりました。

関西

2月20日、吹田にて、70名の参加で開催しました。今年は決戦の年、鉄道事業黒字化とＪＲ貨物の将来に向けた「改革のたたかい」と「16春闘ベア獲得のたたかい」・「夏の参議院選挙勝利」とたしろ応援プロジェクトの貫徹」に向けて、17名の委員から職場の苦闘・闘い厳しい春のたたかいを通じ、組織強化と役員の質的強化を勝ち取り、組合の求心力を高めることを課題とし、関西地本が一枚岩となり春のたたかいを職場から闘い抜くことを満場一致で採択し、成功裏に終了しました。

九州

2月27日小倉・たばこ会館にて、たしろかおる応援プロジェクト貫徹・「16ＪＲ総連春闘」勝利、春の闘いの意思統一と大会までの運動方針を確認しました。今年は決戦の年①たしろかおる応援プロジェクトの成功、②ＪＲ貨物改革の闘いを職場から創造、③ＪＲ総連春闘・16年連続ベアゼロの打破、職場闘争を基本に実践を通じ組織強化に取り組んでいくことを、11名の委員から発言があり、たしろかおる応援プロジェクト貫徹に向けた特別決議・委員会宣言を採決し終了しました。

16春闘要求

- ベースアップ6000円
- 55歳以降の賃金改善
- 初任給の引き上げ
- 契約・臨時・嘱託社員 賃金改善
- 回答指定日3月18日